

■特集：公開シンポジウム－新しい奄美世界の創出－(1)

和泊町シンポジウムの記録掲載にあたって

平井 一臣 (プロジェクト事務局長)

全学プロジェクトとしてスタートを切った「島嶼圏開発のグランドデザイン」は、プロジェクト発足1年目に、名瀬市において第1回目の公開シンポジウムを開催した。(このシンポジウムについては、『奄美と開発－ポスト奄振事業と新しい島嶼開発』として南方新社から出版された。)この第1回目のシンポジウムを受けて、プロジェクト発足2年目に、沖永良部島の和泊町で公開シンポジウムを開催することとなった。

同町での開催は、奄美群島を画一的にとらえるのではなくむしろその多様性に注目すべきではないか、そのためには奄美群島の中心都市である名瀬市以外の自治体、あるいは奄美大島以外の島で開催することに意義があるのではないか、といった問題関心に支えられていた。また、本プロジェクトは、鹿児島大学の研究者だけではなく、むしろ積極的に「地域」や「現場」との相互交流のなかから成果を生み出そうとしている。和泊町でのシンポジウムでも、第一部の研究討論会に同町出身、そしてお隣の与論島出身の若手研究者を報告者としてお招きし、また沖永良部郷土研究会の方々との交流を深めることになった。

シンポジウムが行われた11月は、ちょうど沖永良部島の農繁期にあたり、多忙な時期に果たしてどれだけの人々が集まるか、正直なところかなり不安であった。ところが、会場には150名近くの参加者があり、また、活発な質疑応答もなされた。今回のシンポジウムの成果を受けて、私どものプロジェクト研究も着実に次の一步を踏み出すことができたのではないかと考えている。私どもは、このような実り多きシンポジウムの内容を広く知っ

ていただくために、シンポジウムの記録を「奄美ニューズレター」紙上で数回に分けて掲載し公表することにした。

今回の企画に様々な面でご尽力・ご協力いただいた和泊町長をはじめとする同町役場関係者の方々、和泊町教育委員会、沖永良部郷土研究会に心から謝意を表したい。

